

四国学院大学 2019年度卒業生アンケート集計・分析結果

学生コモンズ支援課

調査概要

I. 対象：2019年度卒業生

II. 調査期間：2020年3月1日～20日

III. 調査方法：学内ポータルサイト Active Academy Advance のアンケート機能の利用およびメール・電話等での調査

IV. 主な調査項目：本学の校風（ユニバーシティーモットー等）について

在学中の学修目標設定およびその達成度について

課程全体を通じた成長実感について

大学教育で身についたことに対する自己評価について

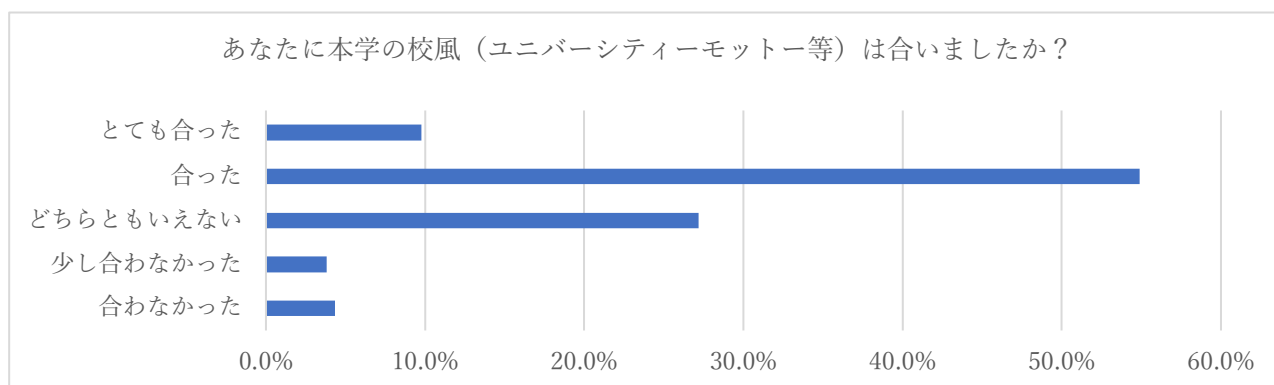
在学中に力を入れたことについて

教育課程全体に対する満足度について

V. 調査回収状況：全卒業生221中184名回答（回収率83.26%）

VI. アンケート集計結果および分析

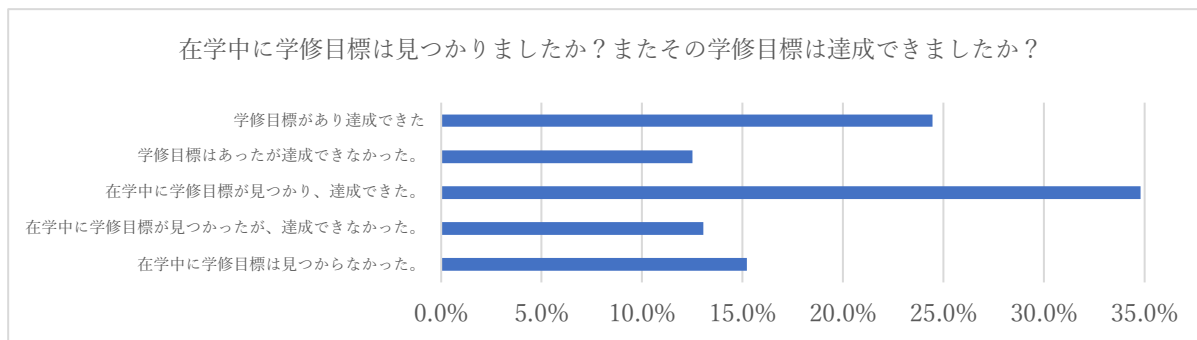
- 卒業生における、本学のユニバーシティーモットーである『Vos estis sal terrae. Evangelium secundum Matthaenum V,13（日本語訳） 汝らは地の塩である マタイによる福音書 5章13節』の浸透度等を計るために「あなたに本学の校風（ユニバーシティーモットー等）は合いましたか？」という設問を設定した。集計結果は以下のとおりである。



本学の校風（ユニバーシティーモットー等）が自分に「合った」および「とても合った」と回答した卒業生が、64.7%（前年比12.1%増）。

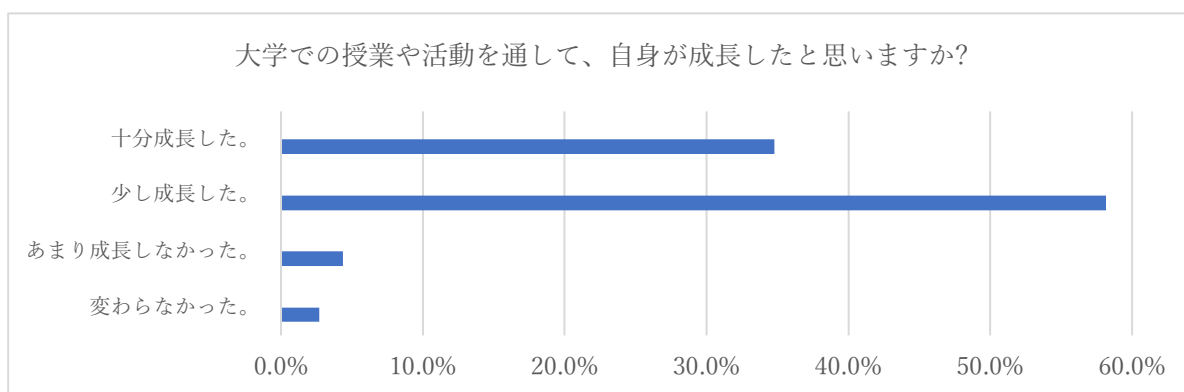
「少し合わなかった」および「合わなかった」が、8.2%（前年比3.8%減）

- 在学中の学修目標設定およびその達成度について計るために「在学中に学修目標は見つかりましたか？またその学修目標は達成できましたか？」という設問を設定した。集計結果は以下のとおりである。



在学中学修目標が見つかった卒業生 47.8%が、予め学修目標を設定していた卒業生 37.0%よりも多い結果となったが、これには入学後に学びをカスタマイズできる本学のメジャー制度が寄与していると考えられる。また、目標を達成できたと自己評価している卒業生は 59.2%であった。2019年度卒業生は、前年に比べて「事前に学習目標を持っていた学生」が多く、37.0%（8.3%増）であった。

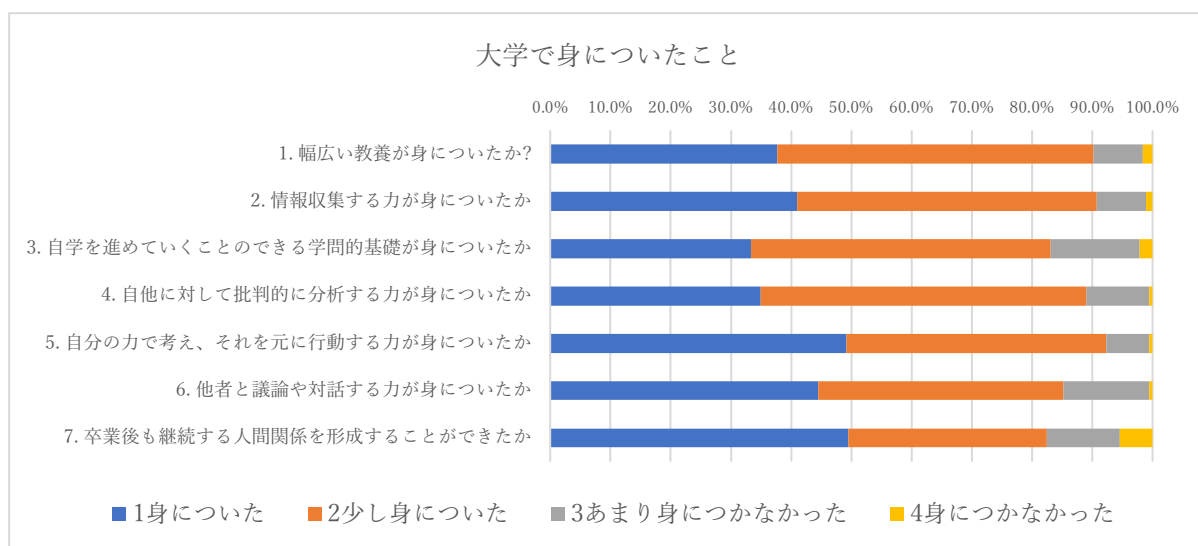
3. 課程全体を通じた成長実感を計るために、「大学での授業や活動を通して、自身が成長したと思いますか？」という設問および「その成長のきっかけとなったことを教えてください（自由記述）」という設問を設定した。集計結果は以下のとおりである。



成長したと実感している卒業生は 93.0%（前年比 0.8%増）であった。「十分成長した：34.8%」「少し成長した：58.2%」。

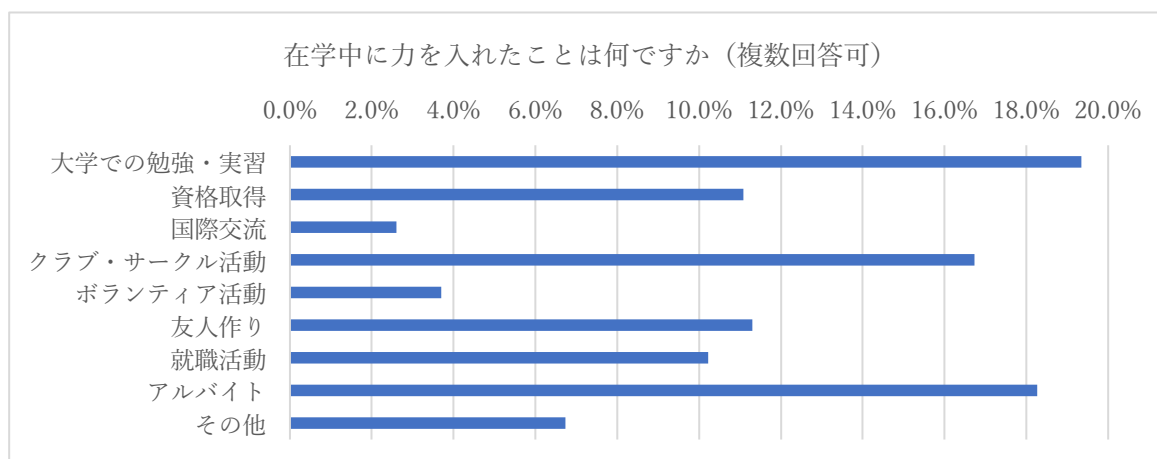
4. 設問3における「きっかけ」を問う設問4を自由記述で設定した。回答結果としては、大学の教育課程（講義、実習、演劇、国際交流等）をきっかけとして記入している卒業生が最も多く（44.5%）、次いで、課外活動（26.0%：サークル、ピア・リーダー、CHC、就活等）、人との出会い（18.0%：教員、友人等）の順であった。
5. 大学教育で身についたことに対する自己評価を計るために、「大学で身についたこと」という設問を設け、「1. 幅広い教養が身についたか、2. 情報収集する力が身についたか、3. 自学を進めていくことのできる学問的基礎が身についたか、4. 自他に対して批判的に分析する力が身についたか、5. 自分の力で考え、それを元に行動する力が身についたか、6. 他者と議論や対話する力が身についたか、7. 卒業後も継続する人間関係を形成することができたか」という7項目について、それぞれに対する自己

評価を求めた。集計結果は以下のとおりである。



「1. 幅広い教養」、「2.情報収集力」、「5.自分の力で考え、それを元に行動する力」については、90%以上の卒業生がある程度身についたと自己評価している。しかし、一方で「3.自学を進めていくことのできる学問的基礎」についての自己評価は83.0%とダウンしている。前年度と比較し、各項目ある程度身についたと回答する学生比率が高くなっているが、「1. 幅広い教養」4.6%減「7.卒業後も継続する人間関係を形成することができた」は3.5%減少している。

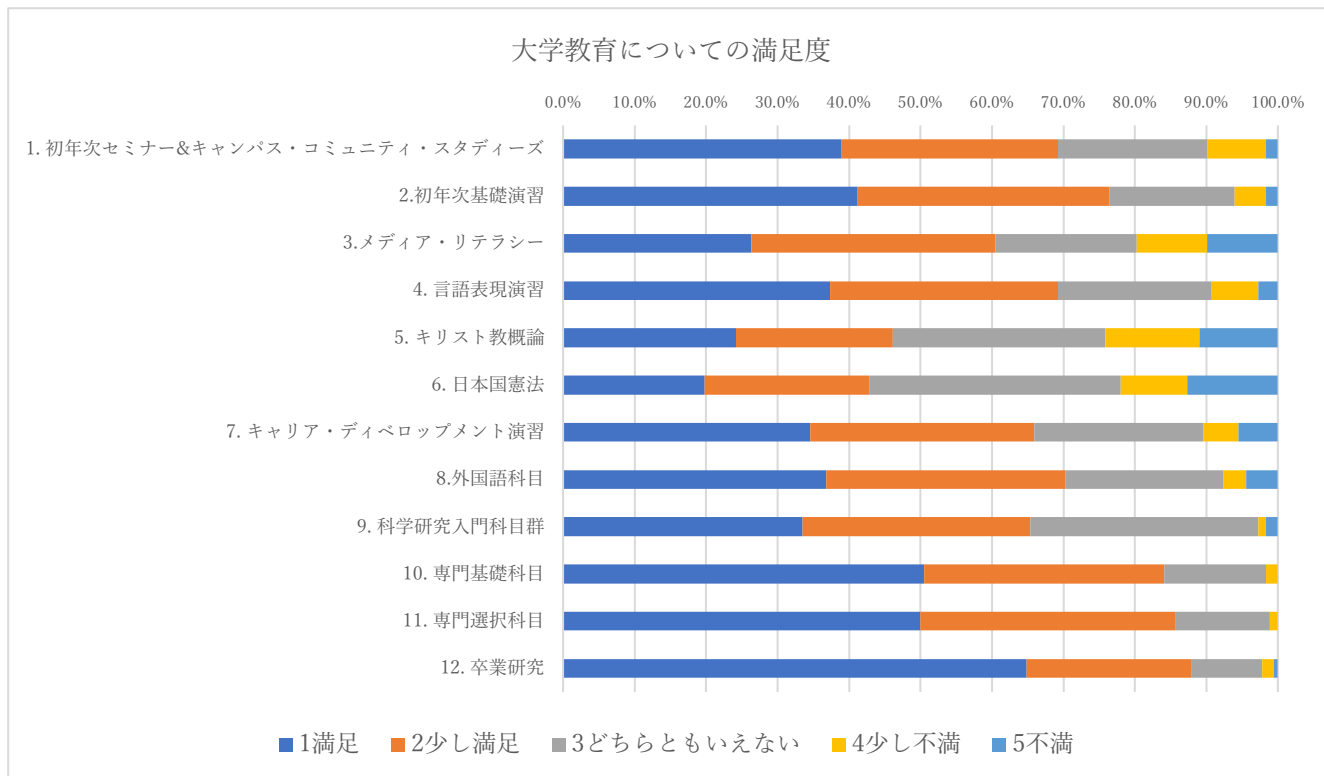
6. 在学中に力を入れたことを把握するため、「在学中に力を入れたことは何ですか（複数回答可）」という設問を設け、「大学での勉強・実習、資格取得、国際交流、クラブ・サークル活動、ボランティア活動、友人作り、就職活動、アルバイト、その他」というリストから回答を得た。集計結果は以下のとおりである。



大学での勉強・実習に力を入れたと回答している卒業生が一番多く（19.3%）、次いでアルバイトの比率が高い（18.3%）。前年も同様の傾向。前年と比較して、資格取得に力を入れた学生が（2.4%増）、就職活動が（2.8%減）が特徴的である。

資格取得に力を入れた学生増については、前年に比べて「事前に学習目標を持っていた学生」が多く（8.3%増）なっていることが影響していると考えられる。就職活動に力を入れた学生減に関しては、内定取得時期の早期化（4月末時点での内定率17.5%（前年比14.2%増））が起因していると思われる。

7. 教育課程全体に対する満足度を計るために「大学教育についての満足度」という項目を設定し、「1. 初年次セミナー&キャンパス・コミュニティ・スタディーズ、2. 初年次基礎演習、3. メディア・リテラシー、4. 言語表現演習、5. キリスト教概論、6. 日本国憲法、7. キャリア・ディベロップメント演習、8. 外国語科目、9. 科学研究入門科目群、10. 専門基礎科目、11. 専門選択科目、12. 卒業研究」というカテゴリーに分け、それぞれについて、「1 満足、2 少し満足、3 どちらともいえない、4 少し不満、5 不満」という選択肢から回答を得た。集計結果は以下のとおりである。



卒業生の満足度（「満足」および「少し満足」）が最も高いのは「卒業研究」であった（87.9%）。満足度が低かったのは、「日本国憲法」42.9%「キリスト教概論」46.2%。

また、教養科目（1～9の科目等）の満足度は62.9%（前年比4.4%増）であり、専門科目（10～12の科目等）の満足度は85.9%（前年比4%増）であった。

個別指導が主体となる「卒業研究」や比較的クラスサイズの小さい講義が多い「専門基礎科目」や「専門選択科目」の満足度が高く、必修科目で比較的大きなクラスサイズの「キリスト教概論」や「日本国憲法」の満足度が低い点からすると、クラスサイズ、自己決定度の高さが、満足度に比較的高く寄与しているのではないかとの推測ができる。今年度の学生の特徴として、高い満足度を示す層が前年度に比べて増加（各項目において、平均6.85%増）している。